

令和8年度兵庫教育大学教員研修プログラム

知っておきたい！関西国際空港におけるまちづくりと社会とのつながりの事後アンケートまとめ

開催日：2026年8月3日

参加者：24名（小学校：17名 中学校：4名 高校：1名 特別支援学校：2名）

定員：20名

1. 受講した理由

この講習の受講を選んだ理由としては、講義だけでなく、見学や実習があるという回答が多かった。

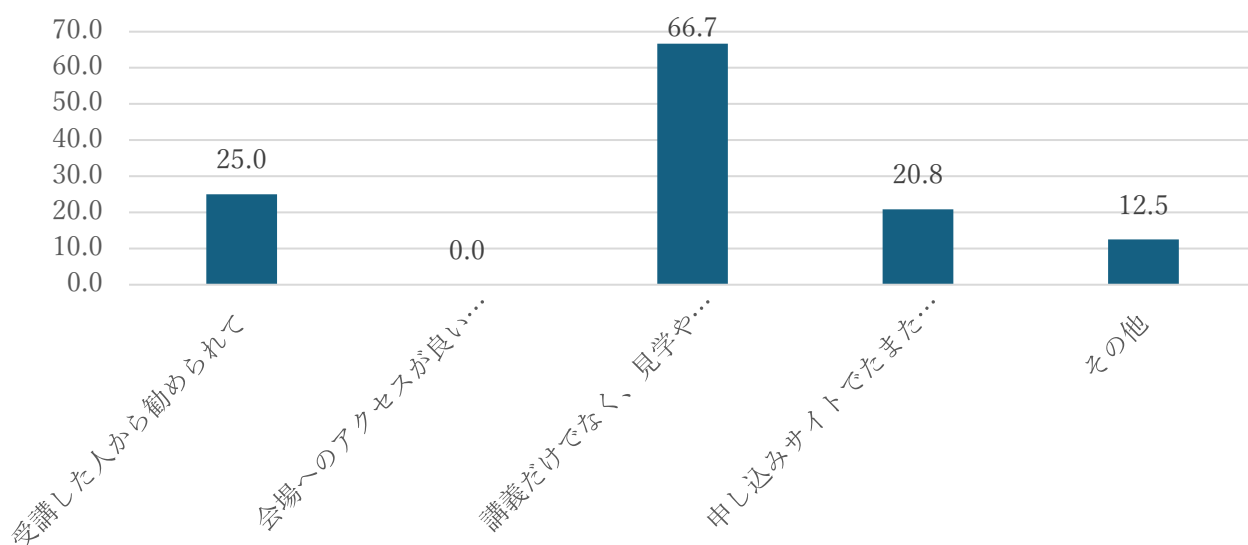


図1 講習の受講を選んだ理由 (N=24)

2. 講義の効果

A) 現地見学（実体験）による理解の深化

- 「普段は入れない制限区域や、資料だけでは分からない実物（ジャッキアップ、タンカーバース等）を目の当たりにできたこと」に対する感動の声が圧倒的であった。

B) インフラの「多角的な機能」と「維持管理の重要性」の認識

- 空港は「建設して終わり」ではなく、環境保全（音・空気・水循環など）への細やかな配慮がなされ、多くの人々や多様な職種が24時間体制でその環境を維持していることに対する理解が深まった。

C) 理科・社会・キャリア教育への直結性

- 「『海の上に建物を建てる』という、子どもたちに伝えたい不思議（知的好奇心）を得られた」という意見があり、学校に持ち帰って授業で語れる生きた教材としての価値が評価された。

D) 他研修（港湾研修）とのシナジー効果

- 数日前に実施された「港湾の研修（7/30実施）」をあわせて受講した教員が多く、「地盤の話や造成の話が非常に理解しやすかった」「土木の分野の幅広さを実感した」との声が上がった。

E) 「土木」に対するイメージの変化

- 自由記述から、研修の成果として、受講前後の「土木」に対する認識の転換が見えた。

表1 「土木」のイメージの変化

受講前のイメージ	受講後のイメージ（認識の転換）
工事、肉体労働、力仕事	緻密な計算と配慮に基づく「理論とシステム」 「ただの力仕事ではなく、綿密に計算された裏付け（地盤工学、気象学等）の上で成り立っていることが分かった」
建設、建物を造るだけの仕事	環境共生や災害対策 暮らしを支える「総合工学」 環境を最小限に抑える工夫、ゴミや水の循環システムなど、非常に広い分野を支える土台であると知った
自分には関わりのない遠い世界	人々の安全な暮らしを支える「陰の立役者」への感謝 土木の方々のおかげで、私たちは安全に生活できている。感謝の気持ちでいっぱいになった
空港と土木の関連性が不明	空港という巨大インフラに結集する「土木の総力」の理解 土木と空港に関連性があると思っていたが、土木の大切さを身に染みて学べた

3. 今後受けてみたい講習内容

直前に令和8年熊本地震があったせいか、防災学習を受講したいという意見が多かった。

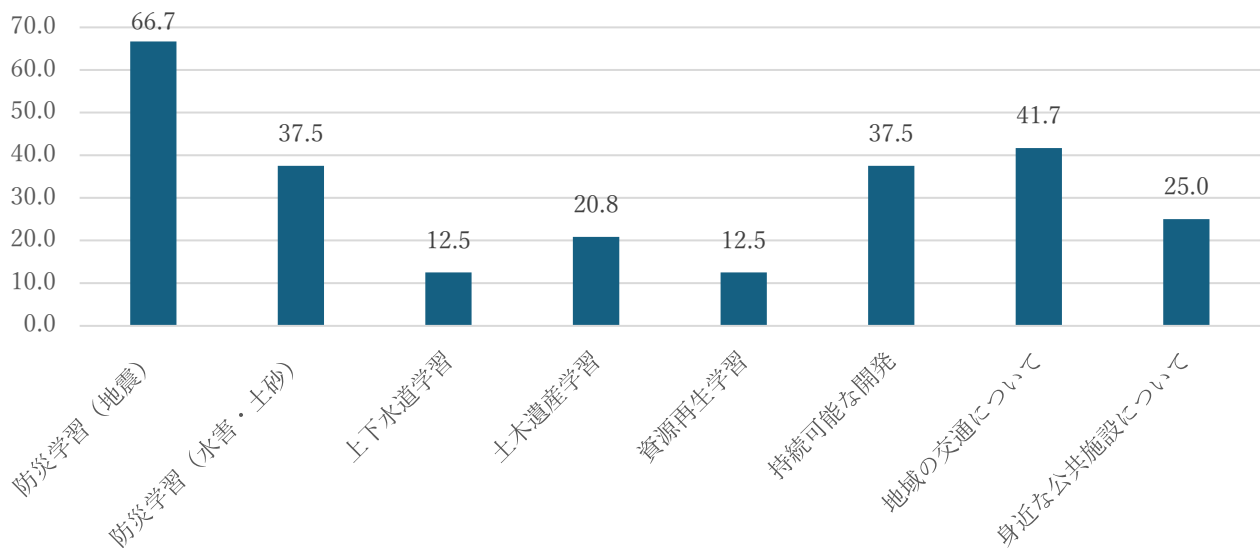


図2 受けてみたい講習内容（N=24）